

## 平成20年度「立ち上がる農山漁村」選定事例概要書

◎取組分野：【女性・若者の力】【食】【交流】

- |             |                             |
|-------------|-----------------------------|
| 1. 都道府県、市町村 | 宮城県 <small>かみまち</small> 加美町 |
| 2. 団体名      | 農事組合法人 やくらい土産センター さんちゃん会    |
| 3. 取組みの名称   | 女性たちが切り開いた新たな経営参画           |
| 4. 取組概要等    |                             |

### ◇概要

加美町は宮城県下でも豪雪地帯であり、厳しい気象条件下のため生産性の向上は難しく、農業は停滞していた。また、冬には他産業に従事する男性が多く、厳しい冬の地域や家庭を守るのは必然的に妻や高齢者たちであった。そのような中、それまでの殻を破り女性たちの活躍が地域に新しい風を吹き込んだきっかけは、昭和50年代に実施した女性たちによる地域の生活環境点検であった。それまで美点などないと思っていた自分たちの住む地域の身近な自然の素晴らしさや文化の深さなどに気づき「暮らしの楽しみ方や生産活動があるともっと違う地域になる、将来自分たちの子どもが夢を持って暮らせるような地域づくりを自分たちの手で出来ないだろうか」と活動が始まった。

女性たちは「町のお土産、採りたての農林産物」を販売する施設の設置を町へ要望し、その願いが叶い完成したのが直売施設「土産センター」である。地域の自然の恵みを販売するという意味合いを持たせ、「みやげ」ではなく「どさんセンター」と名付けた。

平成6年には町に直売施設が整備され、その利用組織として「さんちゃん会」が結成された。会の名称は、かあちゃん、ばあちゃん、じいちゃんが構成員である“さんちゃん”と、太陽のSUN(サン)をいっぱい浴びた新鮮野菜を販売する、太陽のように燦々(さんさん)と光り輝くように、という願いを込め命名した。110人でスタートした「さんちゃん会」は、平成14年には法人化し「農事組合法人やくらい土産センターさんちゃん会」を設立、平成18年度には実績を評価され、町から直売施設の指定管理者の指定を受けた。組織も210人の大所帯となり、売上高も2億円を超えた。

全国に直売所が増加し競争が激しくなる中、宮城県における先駆者として奢ることなく前へ進むため今もチャレンジを続けているだけでなく、安定的な売上げを確保するため、仙台市内のデパートへ週一回の出張販売を実施したり、消費者の物と心の満足を目指した手作りのイベントを実施している。

こうした新たな取り組みを行いながらも「さんちゃん会」のモットーは設立当初から変わらず「新鮮・安心・安い農林水産物の提供」であり、消費者が安心して食べられる商品作り管理に知恵をしばり、「旬のもの」を中心に笑顔の絶えない楽しい直売所づくりを目指している。

### ◇活動の規模

項目	H15	H16	H17	H18	H19
売り上げ	191,549	239,801	222,264	228,720	238,131
解説	単位：千円 土産センターの売り上げ				
観光客入込数	773,417	770,921	1,171,300	1,303,394	1,411,591
解説	単位：人 薬菜地域の観光客入込数				
観光客入込数			170,841	181,847	237,364
解説	単位：回 土産センター観光客入込数				
さんちゃん会交流	20	32	35	23	25
解説	単位：回 視察、講演等受入対外交流回数				

項目	H15	H16	H17	H18	H19
イベント	2	5	6	7	7
回数	解説 単位：回 山菜まつり、創業祭、大収穫感謝祭、わらにお展示 等				

#### ◇活用している地域資源

- ・「加美富士」とも呼ばれる加美町のシンボル「葉菜山」と地域の豊かな自然（荒沢湿原と水芭蕉、鳴瀬川）
- ・農林産物直売施設「やくらい土産センター」
- ・山の幸の販売施設「山の幸センター」
- ・農家レストラン「ふみえはらはん」、農家民宿「おりぎの森」、木菜子屋ファームなどの経営者である女性起業家たち
- ・地域に伝わる伝統野菜である日本有数の地大根「小瀬菜大根」。「小瀬菜大根」は、平成18年度に日本スローフード協会の「味の箱船」に認定されている。

#### ◇地域活性化のポイント

- ・地域に女性農業者の経営参画という新しい役割を生み出した。
- ・女性が主体的に生産活動に関わり自ら販売して経済活動を行うという直売の先駆者となり、県下に波及した存在は大きく、県全体の農業振興にも大きく寄与。（第2回の東北地方直売サミットを主催し、その後も視察受入や各地での講演を通じて自分たちの取組みを県内外へ広めている）また、意欲のある女性起業家を生み出し、野菜や花きなどの園芸を地域に定着させ、若い担い手が就農するようになった。
- ・直売施設が中核となり、人と人とのふれあいを通じた「農村と都市の架け橋」となるようにグリーン・ツーリズムへの取組みが始まり、点でしかなかった活動が線や面でつながり地域全体へ広がっている。（平成8年に設立した組織は平成15年の市町村合併をきっかけに「加美町グリーン・ツーリズム推進会議」となり、さらに「子ども農山漁村交流プロジェクト」のモデル地域（体制整備型）に選定され、更なる交流拡大に挑戦している。

#### ◇事業の今後の展開方向

生活改善グループの設立から約25年が経過し、第一線で活躍してきたかあちゃんたちも年を経てばあちゃん中心になってきた。「さんちゃん会」が好きで生きがいであると会を辞める人は少ないが、農家の高齢化、後継者不足によりこれからの時代を担う「後継者育成」が課題となっている。このため、自分たちの歩んできた道＝さんちゃん会・農業の持つ魅力を若い世代へ伝えることが新しい地域づくりへ繋がるとして、会員による開放講座の開催など地域の誰もが気軽に参加できる講習会を計画している。

食品の偽装、中国産食品の安全性など「食」に関する問題が大きく取り上げられている中「食」を担う自分たちが果たす役割を再確認し、毎日の取組みを大切にしてお客さんと生産者の架け橋となるよう、一層信頼される農産物の生産や製造に日々精進していく。

